

Oracle® Fusion Cloud EPM

Oracle Smart View for Office (Mac and Browser)のデプロイおよび管理



F71305-12

ORACLE®

Oracle Fusion Cloud EPM Oracle Smart View for Office (Mac and Browser)のデプロイおよび管理、

F71305-12

Copyright © 2019, 2025, Oracle and/or its affiliates.

著者: EPM Information Development Team

This software and related documentation are provided under a license agreement containing restrictions on use and disclosure and are protected by intellectual property laws. Except as expressly permitted in your license agreement or allowed by law, you may not use, copy, reproduce, translate, broadcast, modify, license, transmit, distribute, exhibit, perform, publish, or display any part, in any form, or by any means. Reverse engineering, disassembly, or decompilation of this software, unless required by law for interoperability, is prohibited.

The information contained herein is subject to change without notice and is not warranted to be error-free. If you find any errors, please report them to us in writing.

If this is software, software documentation, data (as defined in the Federal Acquisition Regulation), or related documentation that is delivered to the U.S. Government or anyone licensing it on behalf of the U.S. Government, then the following notice is applicable:

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs (including any operating system, integrated software, any programs embedded, installed, or activated on delivered hardware, and modifications of such programs) and Oracle computer documentation or other Oracle data delivered to or accessed by U.S. Government end users are "commercial computer software," "commercial computer software documentation," or "limited rights data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, reproduction, duplication, release, display, disclosure, modification, preparation of derivative works, and/or adaptation of i) Oracle programs (including any operating system, integrated software, any programs embedded, installed, or activated on delivered hardware, and modifications of such programs), ii) Oracle computer documentation and/or iii) other Oracle data, is subject to the rights and limitations specified in the license contained in the applicable contract. The terms governing the U.S. Government's use of Oracle cloud services are defined by the applicable contract for such services. No other rights are granted to the U.S. Government.

This software or hardware is developed for general use in a variety of information management applications. It is not developed or intended for use in any inherently dangerous applications, including applications that may create a risk of personal injury. If you use this software or hardware in dangerous applications, then you shall be responsible to take all appropriate fail-safe, backup, redundancy, and other measures to ensure its safe use. Oracle Corporation and its affiliates disclaim any liability for any damages caused by use of this software or hardware in dangerous applications.

Oracle®, Java, MySQL, and NetSuite are registered trademarks of Oracle and/or its affiliates. Other names may be trademarks of their respective owners.

Intel and Intel Inside are trademarks or registered trademarks of Intel Corporation. All SPARC trademarks are used under license and are trademarks or registered trademarks of SPARC International, Inc. AMD, Epyc, and the AMD logo are trademarks or registered trademarks of Advanced Micro Devices. UNIX is a registered trademark of The Open Group.

This software or hardware and documentation may provide access to or information about content, products, and services from third parties. Oracle Corporation and its affiliates are not responsible for and expressly disclaim all warranties of any kind with respect to third-party content, products, and services unless otherwise set forth in an applicable agreement between you and Oracle. Oracle Corporation and its affiliates will not be responsible for any loss, costs, or damages incurred due to your access to or use of third-party content, products, or services, except as set forth in an applicable agreement between you and Oracle.

目次

ドキュメントのアクセシビリティについて

ドキュメント・フィードバック

1 EPM センター・オブ・エクセレンスの作成および実行

2 概要

3 前提条件

4 マニフェスト・ファイルの作成

マニフェスト・ファイルについて	1
マニフェスト・ファイルの作成および保存	3
複数ログイン・ドメインの操作	6
Smart View のリボン・タブ名の変更	8
右クリック・メニューへのコマンドの追加	8
ローカライズ・バージョンの Smart View (Mac およびブラウザ)の指定	11
関数サポートと関数ビルダーの有効化	12
Smart View (Mac およびブラウザ)での拡張機能の有効化	13

5 複数のマニフェスト・ファイルの操作

複数のマニフェストの使用	1
複数のマニフェストをデプロイまたはサイドロードするためのファイルの作成	2
複数のマニフェスト・ファイルのデプロイまたはサイドロード	3
複数のマニフェスト・ファイルの操作のガイドライン	4

6	以前に保存したマニフェスト・ファイルの再利用	
7	サイドロードとログイン	
	Mac: Excel 365 のサイドロードとログイン	1
	Chrome: サイドロードとログイン	3
8	Office 365 ユーザーへのマニフェスト・ファイルのデプロイ	
9	ヒントとトラブルシューティング	
	ライブラリ・フォルダが「ホーム」パネルに表示されない(「ストレージのクリア」オプション)	1
	Chrome でのポップアップ・ブロックの無効化	3
	Chrome ブラウザのキャッシュのクリア	3
	Mac での Office および Web キャッシュのクリア	4
	タスク・リスト表示の問題	6
	Smart View (Mac およびブラウザ)のボタンに影響する Microsoft 社による Office 365 アドイン・コマンドの変更	6

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

Oracle サポートへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>)か、聴覚に障害のあるお客様は(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>)を参照してください。

ドキュメント・フィードバック

このドキュメントに対するフィードバックは、Oracle Help Center トピックのページの下部にあるフィードバック・ボタンをクリックします。epmdoc_ww@oracle.com に電子メールを送信することもできます。

1

EPM センター・オブ・エクセレンスの作成および実行

EPM のベスト・プラクティスは、CoE (センター・オブ・エクセレンス)を作成することです。

EPM CoE は、導入およびベスト・プラクティスを確実にするための統合された取り組みです。パフォーマンス管理およびテクノロジー対応ソリューションの使用に関連するビジネス・プロセスの変革を促進します。

クラウドの導入により、組織がビジネス・アジリティを改善し、革新的なソリューションを促進することが可能になります。**EPM CoE** はクラウド・イニシアチブを監督し、投資を保護および維持し、効果的な使用を促進するのに役立ちます。

EPM CoE チーム:

- クラウドの導入を確実にし、組織が **Oracle Fusion Cloud EPM** の投資を最大限に活用することを支援します
- ベスト・プラクティスの運営委員会として機能します
- EPM 関連の変更管理イニシアチブをリードし、変革を促進します

すでに EPM を実装済の顧客を含めて、すべての顧客が EPM CoE からメリットを得られます。

どのように始めたらよいですか。

クリックして、EPM CoE のベスト・プラクティス、ガイダンスおよび戦略を取得します: [EPM センター・オブ・エクセレンスの概要](#)。

さらに学ぶ

- クラウド・カスタマ・コネクト Web セミナーを見る: [Cloud EPM のセンター・オブ・エクセレンス\(CoE\)の作成および実行](#)
- ビデオを見る: [概要: EPM センター・オブ・エクセレンスおよびセンター・オブ・エクセレンスの作成](#)。
- *EPM センター・オブ・エクセレンスの作成および実行*の EPM CoE のビジネス上の利点と価値提案の確認。



2

概要

このガイドは Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)のデプロイおよび管理方法について説明しています。これは、Smart View を監督する Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management および Oracle Essbase サービス管理者および Microsoft Office 365 の管理責任者を対象としています。

Mac およびブラウザ用の Smart View アドインを使用すると、Office 365 ユーザーは、ブラウザ・ベースのバージョンの Excel 365 または Excel 365 for Mac で Smart View 機能を利用できます。

Mac およびブラウザ用の Smart View アドインを使用するには、最初に マニフェスト・ファイルを作成します。Smart View には、このマニフェスト・ファイルをすばやく作成するのに役立つユーティリティが用意されています。

マニフェスト・ファイルを Mac またはブラウザに *サイドロード* した後、テスト目的で Smart View を実行できます。テスト後に、マニフェスト・ファイルを Office 365 ユーザーにデプロイできます。

このドキュメントの手順では、次の方法について説明します:

- Mac およびブラウザで Excel 365 用の Smart View アドインのマニフェスト・ファイルを作成する方法
- 初期の開発とテストのためにアドインを Mac またはブラウザにサイドロードする方法
- Microsoft 社の「一元展開」ウィザードを使用して、Office 365 ユーザーにアドインをデプロイする方法

3

前提条件

Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)を使用する前に、次の前提条件を考慮してください。

- Microsoft Office 365 ライセンスでは、次のいずれかまたは両方を利用できます:
 - Mac の Excel 365
 - Google Chrome の Excel 365現在、Smart View (Mac およびブラウザ)は Chrome ブラウザのみをサポートしていません。
- 接続先の環境に対する管理者権限があること
- Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management: Cloud EPM 環境がリリース 19.02 以上に更新されていること。

① ノート

アド・ホック操作ネイティブ・モード: Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)では、サポートされている Cloud EPM アプリケーションでアド・ホック操作ネイティブ・モードをサポートしていません。ネイティブ・モードは段階的に廃止されて標準モードになるため、拡張機能を提供する標準モードをすべてのユーザーにお勧めします。

Smart View (Mac およびブラウザ)を効果的に活用するには、Cloud EPM アプリケーションで、「**Smart View アド・ホック動作**」設定に「**標準**」モード・オプションを使用するように構成することをお勧めします。これにより、互換性が確保され、最新機能にアクセスできるようになります。

- Oracle Essbase:
 - Essbase 環境(Marketplace 経由での Oracle Cloud Infrastructure の Essbase)がリリース 21.5.2.0.1 以上であること
 - Essbase スタックの作成時に **Smart View サーバーのデプロイ**・オプションが使用可能になっていること(Oracle Cloud Infrastructure での Essbase スタックのデプロイメントの[スタックの作成](#)を参照)

① ノート

Smart View は新しい Essbase デプロイメントにのみデプロイできます。以前のリリースからアップグレードする場合は、Smart View (Mac およびブラウザ)をデプロイするオプションはありません。

- テスト環境にアクセスできます。
- 組織に Office 365 ユーザーがプロビジョニングされていること

4

マニフェスト・ファイルの作成

Office 365 は、Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)マニフェスト・ファイルを使用して、ユーザーが Mac またはブラウザで Smart View にアクセスできるようにします。

Related Topics

- [マニフェスト・ファイルについて](#)
Office 365 は、Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)マニフェスト・ファイルを使用して、ユーザーが Mac またはブラウザで Smart View にアクセスできるようにします。
- [マニフェスト・ファイルの作成および保存](#)
Office 365 は、Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)マニフェスト・ファイルを使用して、ユーザーが Mac またはブラウザで Smart View にアクセスできるようにします。
- [複数ログイン・ドメインの操作](#)
ユーザーが複数のアプリケーション・ドメインにアクセスして Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)を操作する場合、サービス管理者は必要なすべてのドメイン URL をマニフェスト・ファイルに追加する必要があります。
- [Smart View のリボン・タブ名の変更](#)
「マニフェスト・ファイルの作成」ページの「アドイン名」は、Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)インタフェースに表示されるリボン・タブ名であり、Excel から Smart View アドインをダウンロードするときに表示されるリボン・タブ名です。
- [右クリック・メニューへのコマンドの追加](#)
右クリック・メニューは、選択したセルのコンテキスト内でよく使用するメニュー・アイテムにアクセスするための便利な方法です。
- [ローカライズ・バージョンの Smart View \(Mac およびブラウザ\)の指定](#)
Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)は、ローカライズ・バージョンのユーザー・インタフェースをサポートします。
- [関数サポートと関数ビルダーの有効化](#)
Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)での作業中に、関数のサポートを有効にし、関数ビルダーへのアクセスを有効にできます。
- [Smart View \(Mac およびブラウザ\)での拡張機能の有効化](#)
マニフェスト・ファイルを作成するときに、ユーザーの拡張機能を有効にできます。

マニフェスト・ファイルについて

Office 365 は、Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)マニフェスト・ファイルを使用して、ユーザーが Mac またはブラウザで Smart View にアクセスできるようにします。

使いやすい「マニフェスト・ファイルの作成」ページを使用して、Smart View (Mac およびブラウザ)のテストとデプロイメントをすぐに開始できます。

「マニフェスト・ファイルの作成」ページでは、次の情報および機能を指定または有効化できます:

- ドメイン情報—複数のログイン・ドメインを使用して環境を設定する場合に重要な情報です([複数ログイン・ドメインの操作](#)を参照)

デフォルトのログイン・ドメインに加えて、2つのドメイン URL が、アプリケーション・ドメインのログイン検証をサポートするために含まれています。これは次のとおりです:

- `https://login.oci.oraclecloud.com`
- `https://consent.truste.com`

これらのデフォルト URL は、削除しないでください。

- Smart View のリボン・タブ名—デフォルトの名前「Smart View」を使用するか、ユーザー要件にあわせて名前をカスタマイズできます。
- Smart View 関数のサポート
- コンテキスト・メニュー用の Smart View リボン・コマンド
- 追加の言語サポート
- 使用可能な拡張機能のサポート

「マニフェスト・ファイルの作成」ページ内のアイテムを指定および有効化した後、ファイルを保存して、テスト用にサイドロードし、ユーザーに対してデプロイします。

[図 1](#) は、「マニフェスト・ファイルの作成」ページの例です。

Figure 4-1 CreateManifest.html ページの例

Create Manifest File

ID:

Domain URL:

Server URL:

App Domains:

https://login.<domainURL>

https://login.oci.oraclecloud.com

https://consent.truste.com

Add-in Name:

Include Functions support

Supported Languages:

Arabic

Chinese (Simplified)

Chinese (Traditional)

Czech

Danish

Available Extensions:

EPM Admin Extension

EPM Books

マニフェスト・ファイルの作成および保存

Office 365 は、Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ) マニフェスト・ファイルを使用して、ユーザーが Mac またはブラウザで Smart View にアクセスできるようにします。

マニフェスト・ファイルを作成するには:

1. ローカル・ドライブに、マニフェスト・ファイルを保存するためのフォルダを作成します。
2. クラウド環境にログインします。例:
 - Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management の Planning のサービス管理者の場合、Planning 環境にログインします。
 - Oracle Essbase 管理者の場合、Essbase 環境にログインします。
3. ログインした後、ビジネス・プロセスの URL を次のように手動で変更して「**マニフェスト・ファイルの作成**」ページ(CreateManifest.html)に移動します:

Cloud EPM 環境の場合:

`https://serviceURL/HyperionPlanning/CreateManifest.html`

Essbase 環境の場合:

`https://serviceURL/essbase/sv/CreateManifest.html`

Note

ブラウザの言語が英語以外の Smart View ユーザー・インタフェースでサポートされている 27 の言語のいずれかに設定されている場合は、「**マニフェスト・ファイルの作成**」ページがそのローカライズされた言語で表示されます。詳細は、[ローカライズ・バージョンの Smart View \(Mac およびブラウザ\)の指定](#)を参照してください。

「**マニフェスト・ファイルの作成**」ページの例は、[マニフェスト・ファイルについての図 1](#)を参照してください。

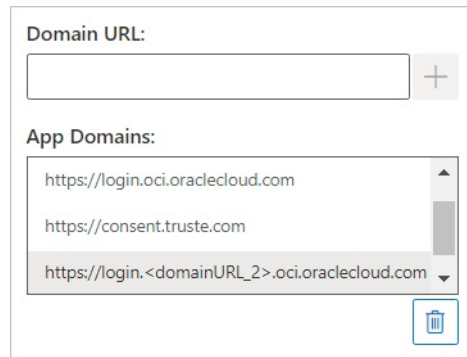
4. 必要な URL を「**ドメイン URL**」に入力し、「**追加**」ボタン  をクリックします。

次のシナリオで、アプリケーション・ログイン・ドメイン URL を追加します:

- OCI 以外の環境で複数のアプリケーション・ログイン・ドメインを使用しています
このシナリオでは、ドメイン URL に次の形式を使用します:

`https://login.<domainURL>.oraclecloud.com`

この例では、これらの URL は、「**アプリケーション・ドメイン**」リスト内に表示されます: デフォルト・ログイン URL (<domainURL_default>)と検証 URL は、リストの最上部に表示され、追加のログイン URL (<domainURL_2>)は、リストの末尾に追加されます:



- Oracle Identity Cloud Service (IDCS)を使用して OCI 環境に入ります
次は、OCI 環境内のドメイン URL 形式の例です

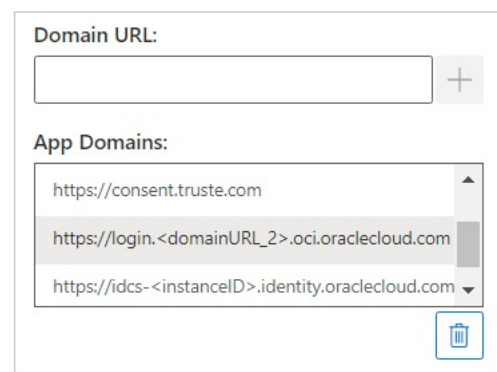
`https://login.<domainURL>.oci.oraclecloud.com`

URL の形式は異なる可能性があります。

IDCS URL を「ドメイン URL」フィールドに次の形式で追加する必要もあります：

`https://idcs-<instanceID>.identity.oraclecloud.com`

次の例では、「アプリケーション・ドメイン」リストの表示部分に次の URL が含まれています：表示リスト(デフォルトのログイン URL とデフォルトの `https://login.oci.oraclecloud.com` URL は表示されません)の上部に証明書 URL (`https://consent.truste.com`)が表示され、追加のログイン URL (`<domainURL_2>`と IDCS URL (`idcs-<instanceID>.identity.oraclecloud.com`)がデフォルトの `https://consent.truste.com` URL の下に表示されます：



URL が「アプリケーション・ドメイン」リストに追加されます。

デフォルトでは、「マニフェスト・ファイルの作成」ページのアクセス元のドメイン URL は、[マニフェスト・ファイルについて](#)に記述されたように、アプリケーション・ドメインのログイン検証に関連する 2 つの追加の URL と一緒に「アプリケーション・ドメイン」にすでに追加されています。

Note

複数のログイン・ドメインの詳細は、[複数ログイン・ドメインの操作](#)を参照してください。

Tip

ドメイン URL を正しい構文で指定するは、適切なクラウド・サービスにログインして URL をコピーし、その URL を「**ドメイン URL**」フィールドに貼り付けて「**追加**」をクリックします。

環境で使用されるすべてのログイン・ドメインを追加する必要があります。Smart View アドインのサイドロード中またはデプロイ後に、マニフェスト・ファイルに定義されていないドメイン(URL)にアクセスすると、Excel は、この URL をブラウザで起動し、ロードは失敗となります。これは、そのドメインをマニフェストに追加し、マニフェスト・ファイルを再生成し、サイドロードまたは再デプロイする必要があることを示しています。

- マニフェスト・ファイルを要件にあわせて次の方法でカスタマイズします。
 - Smart View のリボン・タブ名を変更します([Smart View のリボン・タブ名の変更](#)を参照)
 - 右クリック・コンテキスト・メニューにコマンドを追加します([右クリック・メニューへのコマンドの追加](#)を参照)
 - 追加言語を選択します([ローカライズ・バージョンの Smart View \(Mac およびブラウザ\)の指定](#)を参照)
 - 関数のサポートを有効にします([関数サポートと関数ビルダーの有効化](#)を参照)
 - Smart View で拡張機能を有効にします([Smart View \(Mac およびブラウザ\)での拡張機能の有効化](#)を参照)

また、必要に応じて、次のトピックも参照してください:

- 複数マニフェストのシナリオで使用できるように、マニフェスト・ファイルの一意の ID を生成します([複数のマニフェスト・ファイルの操作](#)を参照)
 - 既存のマニフェスト・ファイルを再利用します([以前に保存したマニフェスト・ファイルの再利用](#)を参照)
- マニフェストに対する変更をレビューして完成させ、「**マニフェストの作成**」をクリックします。

プロンプトで、マニフェスト・ファイルの名前を入力し、保存する場所を選択します。

Note

マニフェスト・ファイル名にはスペースを使用しないでください。

デフォルトでは、マニフェスト・ファイルは、ブラウザのダウンロード場所として指定した場所に保存されます。通常は Downloads フォルダです。

- 作成したマニフェスト・ファイルを Downloads から、マニフェスト・ファイルを保存するために事前に作成したフォルダに移動します。

8. [サイドロードとログイン](#)でデプロイメント前のテストを実施し、[Office 365 ユーザーへのマニフェスト・ファイルのデプロイ](#)でデプロイメント・プロセスを完了させます。

複数ログイン・ドメインの操作

ユーザーが複数のアプリケーション・ドメインにアクセスして Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)を操作する場合、サービス管理者は必要なすべてのドメイン URL をマニフェスト・ファイルに追加する必要があります。

Mac またはブラウザ内の Excel に使用される Smart View ユーザー・インタフェースの情報に加え([マニフェスト・ファイルについて](#)を参照)、マニフェスト・ファイルでは、ユーザーがアクセスするアプリケーション・ドメインに関する情報を「ドメイン URL」および「アプリケーション・ドメイン」フィールドを使用して指定します:

- **ドメイン URL**—複数のログイン・ドメインが構成されている場合に、ログイン・ドメイン URL を追加するのに使用します。追加したログイン・ドメインは、「アプリケーション・ドメイン」にリストされます。
- **アプリケーション・ドメイン**—「サーバー URL」のエントリから導出されたデフォルトのログイン・ドメイン URL がリストされます。環境で複数のログイン・ドメインを使用している場合は、「ドメイン URL」に追加した追加のドメインがリストされます。

デフォルトのログイン・ドメインに加えて、2つのドメイン URL が、アプリケーション・ドメインのログイン検証をサポートするために含まれています。これは次のとおりです:

- `https://login.oci.oraclecloud.com`
- `https://consent.truste.com`

[図 1](#) は、「マニフェスト・ファイルの作成」ページの「ドメイン URL」と「アプリケーション・ドメイン」フィールドが含まれている部分を示しています。

Figure 4-2 「マニフェスト・ファイルの作成」ページの「ドメイン URL」および「アプリケーション・ドメイン」フィールド

The screenshot shows a form titled "Create Manifest File" with the following fields:

- ID:** A text input field containing "<Add-in ID (GUID)>" with two copy icons to its right.
- Domain URL:** A text input field with a red box around the label and a "+" icon to its right.
- Server URL:** A text input field containing "https://<serviceURL>".
- Add-in Name:** A text input field containing "Smart View".
- App Domains:** A list box with a red box around the label, containing three entries: "https://login.<domainURL>", "https://login.oci.oraclecloud.com", and "https://consent.truste.com". A trash icon is located at the bottom right of the list box.

「サーバー URL」フィールドには、「マニフェスト・ファイルの作成」ページにアクセスしたときにログインしたサーバーの URL が表示されます。このフィールドは読み取り専用です。[図 1](#)の例は、一般的な URL 構文を示しています。

追加のアプリケーション・ログイン URL 情報を「ドメイン URL」フィールドに入力します([マニフェスト・ファイルの作成および保存の 4](#) を参照)。

Oracle Identity Cloud Service (IDCS)を使用して OCI 環境に入った場合は、IDCS URL をドメイン URL として追加します。たとえば、URL を次の形式で追加できます:

```
https://idcs-<instanceID>.identity.oraclecloud.com
```

URL の形式は異なる可能性があります。

① Note

「アプリケーション・ドメイン」にドメイン URL がリストされていない場合、ブラウザ・セッションの起動時に不明なドメイン・エラーが発生し、Smart View のサインインは失敗します。

追加したアプリケーション・ドメイン URL および IDCS URL (該当する場合は、[図 2](#) および [図 3](#) の例のように、「アプリケーション・ドメイン」フィールドに表示されます。

Figure 4-3 追加のドメイン URL が表示された「アプリケーション・ドメイン」フィールド

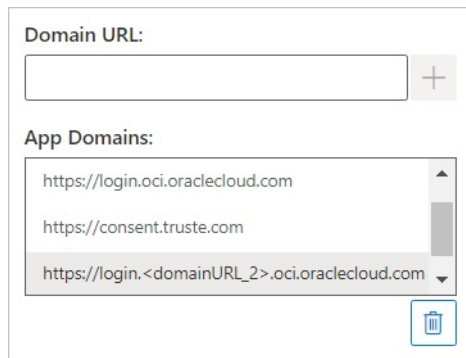
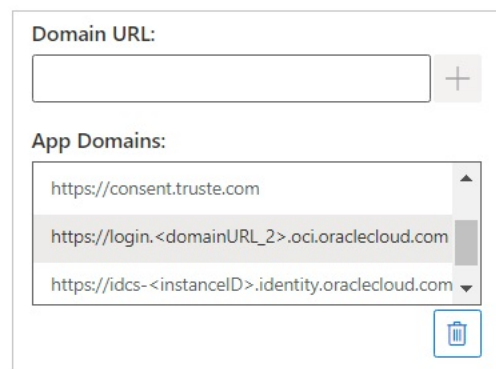


Figure 4-4 追加のドメイン URL および IDCS URL が表示された OCI 環境の「アプリケーション・ドメイン」フィールド



マニフェスト・ファイルに必要なアイデンティティ・ドメイン URL と Oracle Cloud EPM URL を取得するには、アイデンティティ・ドメイン管理者またはサービス管理者にお問い合わせください。

ドメイン管理者とアイデンティティ・ドメイン管理者: [Oracle Cloud コンソール](#)の IAM インタフェースからアイデンティティ・ドメイン情報にアクセスします。

Smart View のリボン・タブ名の変更

「マニフェスト・ファイルの作成」ページの「アドイン名」は、Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)インタフェースに表示されるリボン・タブ名であり、Excel から Smart View アドインをダウンロードするときに表示されるリボン・タブ名です。

マニフェスト・ファイルの作成時に、リボン・タブの名前を変更できます。これは、複数のビジネス・プロセス(例: Planning や Tax Reporting)用のデプロイメントを操作する際に役立ちます。この場合、各デプロイメントに対してリボン名を指定できます。たとえば、Planning には **Smart View Planning** を指定し、Tax Reporting には **Smart View Tax** を指定します。これにより、ユーザーが Excel を Mac またはブラウザ内で起動したときに、「**Smart View Planning**」および「**Smart View Consolidation**」という名前のリボン・タブが表示されます。

① Note

- デフォルトのリボン・タブ名は「**Smart View**」です。
- 名前は 24 文字以内にする必要があります。

リボン・タブ名にデフォルト以外の名前を指定する場合は、「マニフェスト・ファイルの作成」ページの「アドイン名」フィールドに、Mac またはブラウザの Office 365 アプリケーションの「Smart View」に表示するリボン・タブ名を入力します。

これは、Excel で「挿入」、「アドイン」の順にコマンドを使用して Oracle Smart View for Office アドインをダウンロードするときに表示される名前でもあります。

次の例の「アドイン名」フィールドでは、デフォルトのリボン名「**Smart View**」に「**Planning**」が追加されているため、リボン名およびアドイン名は「**Smart View Planning**」と表示されます。

Add-in Name:

Smart View Planning

右クリック・メニューへのコマンドの追加

右クリック・メニューは、選択したセルのコンテキスト内でよく使用するメニュー・アイテムにアクセスするための便利な方法です。

マニフェスト・ファイルを編集し、再デプロイまたは再サイドロードすることで、右クリック・メニューのアイテムに対してコマンドを追加および削除できます。

Note

「コンテキスト・メニュー」ボタンおよび選択したメニュー・アイテムは、右クリック・メニューにのみ適用されます。

Cloud EPM のみ: 右クリック・コンテキスト・メニューのオプションは、プロバイダのリボンの「コンテキスト・メニュー」ボタンで使用できるオプションとは異なります。プロバイダのリボンの「コンテキスト・メニュー」ボタンで選択できるオプションは、サービス管理者およびフォーム・デザイナーによって決定され、現在開いているフォームに定義されているビジネス・ルールまたはアクション・メニュー・アイテムで構成されます。

コマンドの追加

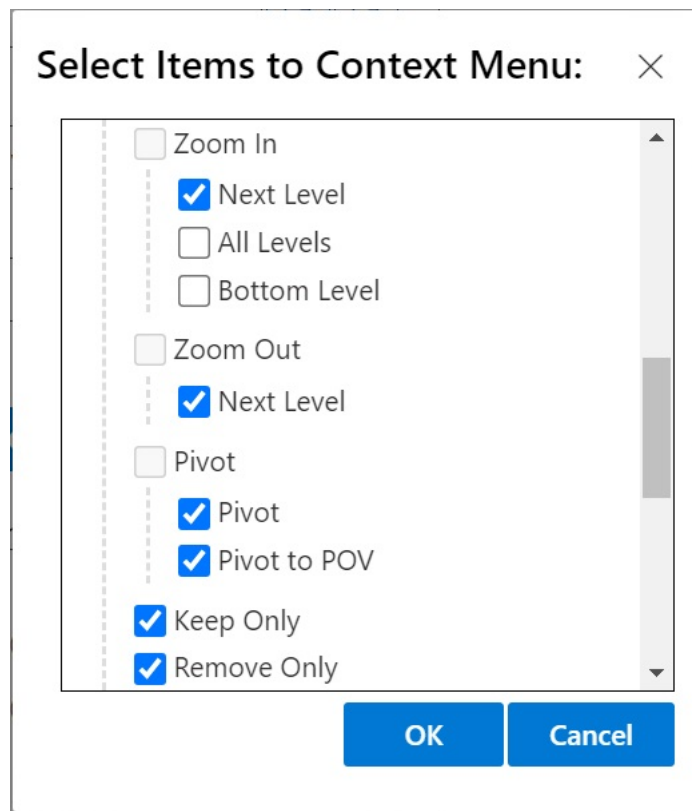
右クリック・メニューにコマンドを追加するには:

1. 「マニフェスト・ファイルの作成」 ページで、「コンテキスト・メニュー」 ボタンをクリックします。
2. **コンテキスト・メニューのアイテムの選択**ダイアログで、右クリック・メニューに追加するメニュー・アイテムの横にあるチェック・ボックスを選択します。

最下位レベルのコマンド名のみを選択します。グループ名は選択できません。選択した後、「OK」 ボタンをクリックします。

右クリック・メニューに選択したアイテムは、**コンテキスト・メニューのアイテムの選択**ダイアログに、下線付きの赤い斜体のテキストで表示されます。

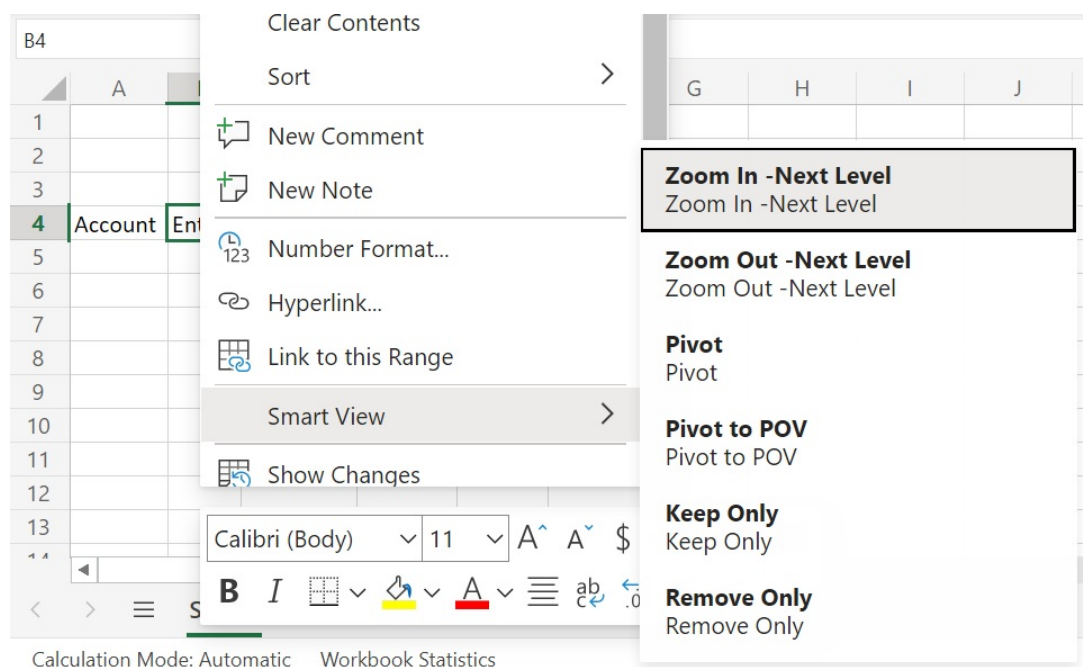
次の例では、「ズーム・イン」 および 「ズーム・アウト」 の両方の「次のレベル」 コマンドが、「ピボット」、「POV にピボット」、「選択項目のみ保持」 および 「選択項目のみ削除」 とともに右クリック・メニューに追加されていることがわかります:



3. 「OK」をクリックしてダイアログを閉じ、「マニフェスト・ファイルの作成」ページに戻ります。

次に示しているのは、前のステップで構成されたコンテキスト・メニューの例です。コンテキスト・メニューでメニュー・オプション名が繰り返されていることに注意してください:

Figure 4-5 右クリック・コンテキスト・メニューの例



コマンドの削除

右クリック・メニューからコマンドを削除するには:

1. 「マニフェスト・ファイルの作成」 ページで、「コンテキスト・メニュー」 ボタンをクリックします。
2. 「コンテキスト・メニューに対するアイテムの選択」 ダイアログで、リストでアイテムを探し(アイテムの横にあるチェック・ボックスが選択されています)、チェック・ボックスをクリアします。
3. 「OK」 をクリックしてダイアログを閉じ、「マニフェスト・ファイルの作成」 ページに戻ります。

ローカライズ・バージョンの Smart View (Mac およびブラウザ)の指定

Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)は、ローカライズ・バージョンのユーザー・インタフェースをサポートします。

サポートされている言語は次のとおりです: アラビア語、チェコ語、デンマーク語、ドイツ語、ギリシャ語、英語、スペイン語、フィンランド語、フランス語、フランス語(カナダ)、ヘブライ語、ハンガリー語、イタリア語、日本語、韓国語、オランダ語、ノルウェー語、ポーランド語、ポルトガル語、ポルトガル語(ブラジル)、ルーマニア語、ロシア語、スロバキア語、スウェーデン語、タイ語、トルコ語、簡体字中国語、繁体字中国語。

ローカライズ・バージョンの Smart View (Mac およびブラウザ)では、英語以外のエクスペリエンスが向上しており、必要に応じて希望の言語に切り替えて Smart View ユーザー・インタフェースを操作できます。

- [管理者向けの情報](#)
- [ユーザー向けの情報](#)

管理者向けの情報

マニフェスト・ファイル作成ページ(CreateManifest.html)もローカライズされており、ブラウザの言語が Smart View でサポートされている言語のいずれかに設定されている場合は、その言語で使用できます。

ローカライズ・バージョンの Smart View (Mac およびブラウザ)をデプロイメントに含めるには、「マニフェスト・ファイルの作成」 ページで、「サポートされている言語」 の下のチェック・ボックスを使用して、デプロイメントに含める言語を最大で 10 個選択します:

Supported Languages:

<input type="checkbox"/>	Arabic	▲
<input type="checkbox"/>	Czech	
<input type="checkbox"/>	Danish	
<input type="checkbox"/>	German	
<input type="checkbox"/>	Greek	▼
<	...	>

Note

- マニフェスト・ファイルごとに許可される言語は 10 に制限されています。「**サポートされている言語**」で 10 を超える言語を選択すると、警告メッセージが表示されます。10 を超える言語を必要とする場合は、その他必要な言語を含めた別のマニフェスト・ファイルを作成し、追加の一元的なデプロイメントを実行する必要があります。詳細は、[複数のマニフェスト・ファイルの操作](#)を参照してください。
- 「サポートされている言語」オプションでは、次の点に注意してください：
 - マニフェスト・ファイルのサイドロードのみを予定している場合でも、10 言語までの制限が適用されます。
 - 英語以外の環境やロケールであっても、常に英語がデフォルトで選択されません。

デプロイすると、Smart View ユーザーは、サポートされているローカライズされたすべての言語を選択できるようになります。

ユーザー向けの情報

Mac では、Mac システムのロケールを変更してローカライズ・バージョンの Smart View (Mac およびブラウザ)を使用します。Chrome ブラウザでは、Office 365 の言語プリファレンスを変更します。サポートされている言語への変更はいつでも実行できます。たとえば、ユーザーは英語からフランス語に変更し、後でフランス語から簡体字中国語に変更できます。インタフェース言語の変更には制限はありません。

ローカライズ・バージョンの Smart View (Mac およびブラウザ):を使用するには

- Mac では、Mac システムの言語バージョンを変更します。指示については、[Mac の言語を変更する](#)を参照してください。
Mac システムで言語を変更する場合、変更は即時行われます。
- Windows 10 では、ブラウザ・バージョンの Office 365 で言語表示プリファレンスを変更します。指示については、[Microsoft 365 for Business で表示言語とタイムゾーンを変更する](#)を参照してください。

Windows 版の Office 365 で言語を変更する場合、変更が有効になるまで 20 分以上見込んでください。

関数サポートと関数ビルダーの有効化

Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)での作業中に、関数のサポートを有効にし、関数ビルダーへのアクセスを有効にできます。

関数のサポートと関数ビルダーへのアクセスを有効にするには、マニフェスト・ファイルを作成または編集するときに、「**マニフェスト・ファイルの作成**」ページの「**組み関数のサポート**」チェック・ボックスを選択します。

次に示しているのは、「**組み関数のサポート**」チェック・ボックスの例です。

Include Functions support

このチェック・ボックスを選択すると、ユーザーは次のことができます:

- サポートされている関数をワークシートに手動で追加または編集します。
- **関数ビルダー**・インタフェースにアクセスして、ウィザードを使用して関数を作成します。
デプロイした後は、Smart View のリボンから**関数ビルダー**にアクセスできます。「**編集**」グループで、「**関数**」、「**関数の構築**」の順に選択して**関数ビルダー**を起動します。

① Note

「**組み込み関数のサポート**」チェック・ボックスは、デフォルトでは無効になっています。Smart View で関数进行操作するには、マニフェスト・ファイルを作成または編集するときに「**組み込み関数のサポート**」チェック・ボックスを選択する必要があります。

Smart View (Mac およびブラウザ)での拡張機能の有効化

マニフェスト・ファイルを作成するときに、ユーザーの拡張機能を有効にできます。

これらの Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management の拡張機能が、「**使用可能な拡張機能**」セクションの下にリストされています。

- [EPM 管理拡張機能](#)
- [EPM ブック](#)

① Note

Oracle Essbase には使用可能な拡張機能がありません。

EPM 管理拡張機能

Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)で EPM 管理拡張機能を使用するには、「**EPM 管理拡張機能**」オプションを選択します。

管理拡張機能を使用すると、ディメンション管理およびアプリケーション管理の機能にアクセスできます。「**EPM 管理拡張機能**」チェック・ボックスを選択して、サービス管理者専用の別個のカスタム・マニフェスト・ファイルをデプロイまたはサイドロードすることをお勧めします。

EPM ブック

Smart View で EPM ブック機能を使用するには、「**EPM ブック**」チェック・ボックスを選択します。

Cloud EPM では、ブックは単一の PDF または Excel 出力として生成する 1 つ以上のレポート、ブックおよびその他のドキュメントのコレクションです。Smart View (Mac およびブラウザ)の EPM ブック拡張機能を使用すると、ブックを Microsoft Excel にインポートし、POV 値を変更してリフレッシュすることで操作できます。Web アプリケーションから Excel 形式でダウンロードされたブックを開いて操作することもできます。

5

複数のマニフェスト・ファイルの操作

複数のマニフェスト・ファイルをデプロイまたはサイドロードできます。

Related Topics

- [複数のマニフェストの使用](#)
様々な目的で、複数のマニフェストのデプロイまたはサイドロードが必要になる場合があります。
- [複数のマニフェストをデプロイまたはサイドロードするためのファイルの作成](#)
複数のマニフェスト・ファイルのシナリオで使用するマニフェスト・ファイルを作成できます。
- [複数のマニフェスト・ファイルのデプロイまたはサイドロード](#)
複数のマニフェスト・ファイルをデプロイまたはサイドロードできます。
- [複数のマニフェスト・ファイルの操作のガイドライン](#)
複数のマニフェスト・ファイルを操作する場合は、次のガイドラインを考慮してください。

複数のマニフェストの使用

様々な目的で、複数のマニフェストのデプロイまたはサイドロードが必要になる場合があります。

例:

- Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)機能のサブセットをユーザーにデプロイすると同時に、テストしてからデプロイする予定の新機能が含まれているマニフェストをサイドロードする必要があります。
- Planning および Financial Consolidation and Close のデータ・ソースに基づいたグリッドが含まれている複数グリッド・シートを作成する必要があります。
- 10 を超えるローカライズされた言語での Smart View インタフェースが必要とされています。マニフェスト・ファイル当たり 10 言語という制限があるため、言語を複数のマニフェスト・ファイルに分散させる必要があります。

複数のマニフェストをデプロイまたはサイドロードできます:

1. 同じビジネス・プロセスの同じクラウド・データ・ソースから
2. 異なるビジネス・プロセスの同じクラウド・データ・ソースから
3. 同じビジネス・プロセスの異なるクラウド・データ・ソースから
4. 異なるビジネス・プロセスの異なるクラウド・データ・ソースから

一般に、複数のマニフェスト・ファイルのデプロイメントまたはサイドローディングは、デプロイメントまたはサイドローディングの手順を繰り返すのと同じくらい簡単です。ただし、前述の番号 1 と 3 で示した同じビジネス・プロセスに基づいて複数のマニフェストを操作する場合は、追加の手順が必要となり、マニフェストを区別するために XML ファイル内の <Id>要素を再定義する必要があります。

複数のマニフェストをデプロイまたはサイドロードするためのファイルの作成

複数のマニフェスト・ファイルのシナリオで使用するマニフェスト・ファイルを作成できます。

マニフェスト・ファイルを作成するには:

1. 適切なクラウド・ビジネス・プロセスにログインして、各ビジネス・プロセスに必要なマニフェストを作成または編集します。

① Note

複数のマニフェスト・ファイルを操作する場合は、デプロイまたはサイドロードする予定の複数のファイルの1つのみで関数のサポートを有効にできます。たとえば、3つのマニフェスト・ファイルをデプロイする予定の場合、「**組込み関数のサポート**」オプションは、3つのマニフェスト・ファイルの1つのみで有効にできません。

マニフェスト・ファイルの作成手順は、[マニフェスト・ファイルの作成および保存](#)を参照してください。

複数のマニフェスト・ファイルのシナリオですでに使用したマニフェスト・ファイルを再利用する場合は、[以前に保存したマニフェスト・ファイルの再利用](#)を参照してください。

2. 「**アドイン名**」フィールドに、作成する各マニフェスト・ファイルの **Smart View** リボンの一意の名前を指定します。

アドイン名は、Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)インタフェースに表示されるリボン名です。

アドイン名は、Excel で「**挿入**」、「**アドイン**」の順にコマンドを使用して **Smart View** アドインをダウンロードするときに表示される名前でもあります

次の例では、デフォルトのリボン名「**Smart View**」に「**プランニング**」が追加されているため、リボン名およびアドイン名は「**Smart View プランニング**」と表示されます。

Add-in Name:

① Note

名前は 24 文字以内にする必要があります。


各リボンとアドインに一意の名前を付けて、それぞれの目的がわかるようにすることをお勧めします。たとえば、**Planning** データ・ソースと **Tax Reporting** データ・ソースのマニフェストを作成する場合、**Planning** ソースには **Smart View Planning**、**Tax Reporting** ソースには **Smart View Tax** という名前を使用できます。

- すべてのアプリケーション・ログイン・ドメイン URL および、IDCS を使用して OCI 環境に入った場合は Oracle Identity Cloud Service (IDCS) の URL を追加したことを確認します ([マニフェスト・ファイルの作成および保存の 4](#) を参照)。


追加情報は、[複数ログイン・ドメインの操作](#) を参照してください。

- [複数のマニフェストの使用](#) の番号 1 と 3 で示したような、同じビジネス・プロセスに対して複数のマニフェストを作成する予定がある場合は、ステップ 5 に進みます。

作成する予定の各マニフェストが [複数のマニフェストの使用](#) の番号 2 と 4 で示したような、異なるビジネス・プロセスに対するものである場合は、ステップ 6 に進みます。

- 「マニフェスト・ファイルの作成」 ページで、 をクリックしてマニフェスト・ファイルの新しい GUID を生成します。

Note

「ID」 フィールドの GUID は手動で編集しないでください。新しい GUID を生成するには、常に **一意の新規 GUID の生成** ボタン  をクリックしてください。このフィールドを手動で編集すると、マニフェストが無効になる可能性があります。

マニフェスト・ファイルの新しい GUID が 「ID」 フィールドに表示されます。

次に示しているのは、「ID」 フィールドとその 「アドイン GUID に対して一意の新規 ID を

生成します」 ボタン  です:

ID:

- [複数のマニフェスト・ファイルのデプロイまたはサイドロード](#) に進みます。

複数のマニフェスト・ファイルのデプロイまたはサイドロード

複数のマニフェスト・ファイルをデプロイまたはサイドロードできます。

複数のマニフェスト・ファイルをデプロイまたはサイドロードするには:

- [複数のマニフェストをデプロイまたはサイドロードするためのファイルの作成](#) の手順を完了して、各ビジネス・プロセスに必要なマニフェスト・ファイルを準備します。
- 作成した各マニフェスト・ファイルに対して、デプロイメントまたはサイドローディングの手順を実行します。

または、必要なデプロイメントとサイドローディングを組み合わせで実行します。たとえば、デプロイメントを実行してからサイドローディングを実行、またはサイドローディングを実行してからデプロイメントを実行します。

詳細は、次の各章を参照してください:


- [Office 365 ユーザーへのマニフェスト・ファイルのデプロイ](#)

- [サイドロードとログイン](#)

複数のマニフェスト・ファイルの操作のガイドライン

複数のマニフェスト・ファイルを操作する場合は、次のガイドラインを考慮してください。

- **Mac** またはブラウザのキャッシュをクリアすると、サイドロードされたアドインは削除されますが、一元的にデプロイされたアドインは削除されません。**Mac** または **Mac** のブラウザでキャッシュをクリアするたびに、アドインを再サイドロードする必要があります。ただし、一元的なデプロイメントによってデプロイされたアドインは、キャッシュをクリアした後でも自動的に表示されます。
- **Mac** でサイドロードする場合は、**Excel 365** を起動するたびに、**Smart View** アドインを追加する必要があります。
- 複数のグリッド・シートが含まれている、すでにデータが存在するワークシートを開くと、キャッシュをクリアしたり再サイドロードすることなく、ワークシートのメタデータによって適切なリボンが自動的にロードされます。
- 「マニフェスト・ファイルの作成」ページの「ID」フィールドは、手動で編集しないでくだ

さい。新しい GUID を生成するには、常に**一意の新規 GUID の生成**ボタン  をクリックしてください。このフィールドを手動で編集すると、マニフェストが無効になる可能性があります。

6

以前に保存したマニフェスト・ファイルの再利用

マニフェストを再利用する場合は、元のマニフェストに定義されている他の複数の要素とともにアドイン ID を再利用します。また、元のマニフェストと一致させるために、他の要素を編集または再作成する必要があります。

既存のマニフェスト・ファイルを再利用するには:

1. ビジネス・プロセス環境にログインします。例:
 - Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management の Planning のサービス管理者の場合、Planning 環境にログインします。
 - Oracle Essbase 管理者の場合、Essbase 環境にログインします。
2. ログインした後、ビジネス・プロセスの URL を次のように手動で変更して「マニフェスト・ファイルの作成」ページ(CreateManifest.html)に移動します:

Cloud EPM 環境の場合:

`https://serviceURL/HyperionPlanning/CreateManifest.html`

Essbase 環境の場合:

`https://serviceURL/essbase/sv/CreateManifest.html`

3. 「マニフェスト・ファイルの作成」ページで、「ID」フィールドの横にある「再使用するマニフェスト・ファイルを選択します」 をクリックし、再利用するマニフェスト・ファイルを選択して「開く」をクリックします。


選択したマニフェスト・ファイルの ID が「ID」フィールドに表示されます。

次に示しているのは、デフォルトの「ID」フィールドと、その横にある「再使用するマニフェスト・ファイルを選択します」ボタン です。

ID:



Caution

既存のマニフェスト・ファイルを再利用する場合は、 をクリックしないでください。

4. 「マニフェスト・ファイルの作成」ページで、次の要素が元の選択内容で再設定されます。必要に応じて確認および編集できます:

- アプリケーション・ドメイン
- アドイン名
- 組み込み関数のサポート

Note

「サーバー URL」フィールドは編集できません。

5. **重要:** 「アドイン名」フィールドでは、元のマニフェスト・ファイルで使用したものと同名前を使用することをお勧めします。

たとえば、以前に「アドイン名」フィールドで Smart View Planning を使用していた場合は、「アドイン名」フィールドに Smart View Planning が入力されているようにします。

Add-in Name:

Smart View Planning

Note

「アドイン名」フィールドへの入力は 24 文字以内にする必要があります。

アドイン名は、Oracle Smart View for Office インタフェースに表示されるリボン名です。**アドイン名**は、Excel で「挿入」、「アドイン」の順にコマンドを使用して Smart View アドインをダウンロードするときに表示される名前でもあります。

複数のマニフェスト・ファイルをデプロイする場合は、デプロイするマニフェストごとに「アドイン名」フィールドに一意の名前を指定することをお勧めします。これにより、各アドインとリボンの目的がわかるようになります。たとえば、Planning データ・ソースと Tax Reporting データ・ソースのマニフェストを作成する場合、Planning ソースには **Smart View Planning**、Tax Reporting ソースには **Smart View Tax** という名前を使用できます。詳細は、[複数のマニフェスト・ファイルの操作](#)を参照してください。

6. 「組み込み関数のサポート」チェック・ボックスが以前に選択されていた場合は、選択されていることを確認します。
詳細は、[関数サポートと関数ビルダーの有効化](#)を参照してください
7. 「コンテキスト・メニュー」をクリックし、必要な右クリック・コンテキスト・メニュー・アイテムが選択されていることを確認します。
詳細は、[右クリック・メニューへのコマンドの追加](#)を参照してください
8. **使用可能な拡張機能**で、必要な拡張機能が選択されていることを確認します。
詳細は、[Smart View \(Mac およびブラウザ\)での拡張機能の有効化](#)を参照してください
9. すべての更新を実施した後、「マニフェストの作成」ボタンをクリックします。
10. 作成したマニフェスト・ファイルを、マニフェスト・ファイルを格納するフォルダに移動します。
11. **オプション:** 複数のマニフェスト・ファイルのデプロイでマニフェスト・ファイルを再利用する場合は、各マニフェストに対して前述のステップを繰り返し、必要に応じてカスタマイズします。

複数のマニフェスト・ファイルのデプロイまたはサイドロードの詳細は、[複数のマニフェスト・ファイルの操作](#)を参照してください。

7

サイドロードとログイン

次も参照:

- [Mac: Excel 365 のサイドロードとログイン](#)
Mac でのサイドロードは、Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ) アドインをより多くのユーザーにデプロイする前にテストする方法です。
- [Chrome: サイドロードとログイン](#)
ブラウザでのサイドロードは、Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ) アドインをより多くのユーザーにデプロイする前にテストする方法です。

Mac: Excel 365 のサイドロードとログイン

Mac でのサイドロードは、Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ) アドインをより多くのユーザーにデプロイする前にテストする方法です。

① ノート

Excel 365 を起動するたびに、[Mac の Excel 365 でのサイドロード](#)のステップを実行して Smart View アドインを追加する必要があります。

次を参照してください。

- [Mac の Excel 365 でのサイドロード](#)
- [Mac の Excel 365 での Smart View へのログイン](#)

Mac の Excel 365 でのサイドロード

Mac で実行されている Excel 365 の場合は、[マニフェスト・ファイルの作成および保存](#)で作成したマニフェスト・ファイルを使用して、Smart View アドインをサイドロードできます。

① ノート

マニフェスト・ファイルをサイドロードする前に、Office のキャッシュをクリアする必要があります。詳細は、[Mac での Office および Web キャッシュのクリア](#)を参照してください。

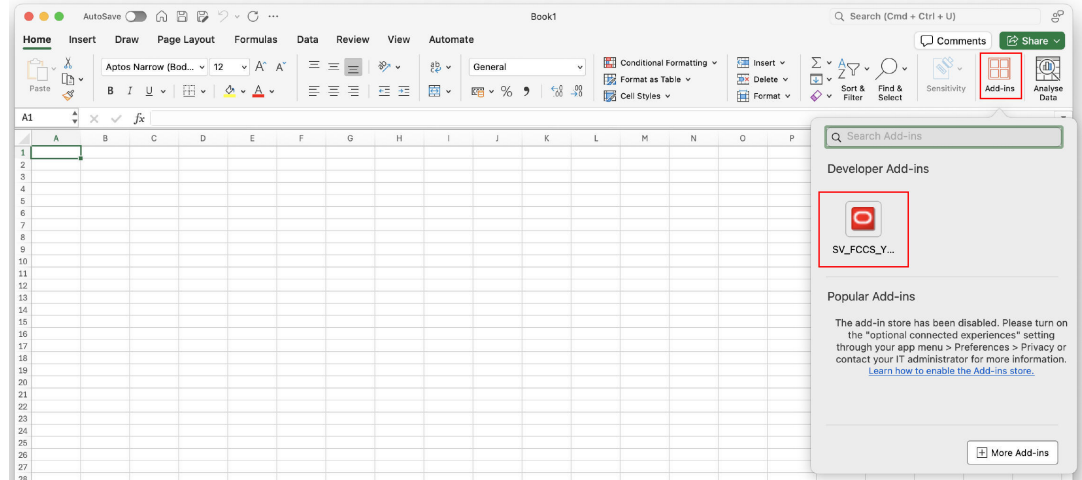
次の手順は、個人的なテストに使用します。Mac の Excel 365 でマニフェスト・ファイルをサイドロードするには:

1. [マニフェスト・ファイルの作成および保存](#)で保存したマニフェスト・ファイルを次の場所にコピーします:

```
/Users/<user>/Library/Containers/com.microsoft.Excel/Data/Documents/wef
```

wef フォルダがこの場所に存在しない場合は、作成します。

2. Excel 365 を起動します。
3. 「ホーム」タブを選択します。
4. **開発者向けアドイン**で**アドイン**をクリックし、**Smart View** アドインを選択します。



Smart View のリボン・タブが Excel に表示されます。

① ノート

Mac でサイドロードする場合は、Excel 365 を起動するたびに、Smart View アドインを追加する必要があります。

5. [Mac の Excel 365 での Smart View へのログイン](#)に進みます。
6. **オプション:** 複数のマニフェスト・ファイルをサイドロードする場合は、サイドロードするマニフェストごとに前述のステップを繰り返します。

複数のマニフェスト・ファイルをサイドロードする方法については、[複数のマニフェスト・ファイルの操作](#)を参照してください。

Mac の Excel 365 での Smart View へのログイン

[Mac の Excel 365 でのサイドロード](#)のステップを完了し、Smart View アドインを Excel 365 に追加した後は、環境にログインできます。

環境にログインするには:

1. Smart View のリボンで、「ホーム」をクリックします。
「ホーム」パネルに、Oracle Cloud ログイン・ダイアログが表示されます。
2. ログイン・ダイアログにユーザー名とパスワードを入力し、「サインイン」をクリックします。
環境に接続されます。「ホーム」パネルに環境ライブラリ・フォルダとキューブが表示されます。

Chrome: サイドロードとログイン

ブラウザでのサイドロードは、Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)アドインをより多くのユーザーにデプロイする前にテストする方法です。

次を参照してください。

- [Chrome でのサイドロード](#)
- [Chrome の Excel 365 での Smart View へのログイン](#)

① ノート

この項のステップは、Chrome で Smart View を有効にするためのものです。他のブラウザのサポートと手順は将来の更新で提供されます。

Chrome でのサイドロード

この手順では、Smart View のリボンを Chrome ブラウザで実行されている Excel 365 にすばやくサイドロードする方法を学習します。

① ノート

マニフェスト・ファイルをサイドロードする前に、ブラウザのキャッシュをクリアする必要があります。詳細は、[Chrome ブラウザのキャッシュのクリア](#)を参照してください。

この手順のステップは、以前に Smart View をデプロイしていないか、開始する前にブラウザのキャッシュをクリアしていることを前提としています。

Chrome でマニフェスト・ファイルをサイドロードするには:

1. Chrome を起動します。
2. テスト環境の Web アプリケーションにログインしてから、Office 365 および Smart View にログインします。

たとえば、「pbcspod」という環境にログインしてマニフェスト・ファイルを作成した場合は、「pbcspod」で Planning を起動してログインします。

① ノート

Smart View にログインする前に、ブラウザでサービスを実行する必要があります。

3. ブラウザで別のタブを開き、Office 365 の資格証明を使用して portal.office.com にログインします。
4. 「Excel」をクリックし、新しい空白のワークブックを作成します。
5. 「ホーム」リボンに移動し、「アドイン」セクションで「詳細」をクリックします。

6. 「Office アドイン」ダイアログで、**自分のアドインのアップロード**をクリックします。
7. [マニフェスト・ファイルの作成および保存](#)で作成したマニフェスト・ファイルの場所を参照します。
8. 作成したマニフェスト XML ファイルを選択し、「**アップロード**」をクリックします。
Smart View のリボンのタブが表示されます。[ステップ 2](#) で環境にログインしているため、Smart View リボンの「**ホーム**」をクリックすると、「Smart View ホーム」パネルに使用環境のライブラリ・フォルダとキューブも表示されます。
9. **オプション:** 複数のマニフェスト・ファイルをサイドロードする場合は、サイドロードするマニフェストごとに前述のステップを繰り返します。
複数のマニフェスト・ファイルをサイドロードする方法については、[複数のマニフェスト・ファイルの操作](#)を参照してください。

Chrome の Excel 365 での Smart View へのログイン

Smart View アドインをサイドロードした直後にログインを続行する場合は、Oracle Essbase または Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management サービス(Planning など)にすでにログインしている必要があります。

以前のセッションで Smart View アドインをサイドロードし、Cloud EPM クラウド・サービスにまだログインしていない場合は、次の手順を実行して Office 365、Cloud EPM サービスおよび Smart View にログインします。

1. Chrome で、テスト環境の Web アプリケーションにログインしてから、Office 365 および Smart View にログインします。
たとえば、pbcspod という環境にログインしてマニフェスト・ファイルを作成した場合は、pbcspod で Planning を起動してログインします。

① ノート

Smart View にログインする前に、ブラウザでサービスが稼働している必要があります。

2. ブラウザで別のタブを開き、Office 365 の資格証明を使用して **portal.office.com** にログインします。
3. 「Excel」をクリックし、新しい空白のワークブックを作成します。
4. 「ホーム」リボンに移動し、「アドイン」セクションで「詳細」をクリックします。
5. 「Office アドイン」ダイアログで、**自分のアドインのアップロード**をクリックします。
6. [マニフェスト・ファイルの作成および保存](#)で作成したマニフェスト・ファイルの場所を参照します。
7. 作成したマニフェスト XML ファイルを選択し、「**アップロード**」をクリックします。
8. 「Smart View」リボンを選択します。
9. 「**ホーム**」をクリックして「Smart View ホーム」パネルを起動します。
すでに環境にログインしており、「ホーム」パネルに環境ライブラリ・フォルダとキューブが表示されているはずですが。
「ホーム」パネルがグレー表示されている場合、これは一時的なバグです。次のステップを実行します:

- a. エラー・メッセージを確認します。つまり、パネルをタイムアウトさせて「再試行」ボタンをクリックし、再度タイムアウトさせて「開始」ボタンをクリックします。
「ホーム」パネルがグレー表示ではなくなります。
- b. 環境に対する資格証明を使用してログインします。
プロバイダの Web ページがパネルに表示されます。
- c. パネルを閉じます。
- d. 「ホーム」ボタンを再度クリックします。
これで環境に接続され、環境のライブラリ・フォルダとキューブがパネルに表示されます。

8

Office 365 ユーザーへのマニフェスト・ファイルのデプロイ

マニフェスト・ファイルを作成したら、それを Office 365 ユーザーにデプロイできます。

この章の手順は、[マニフェスト・ファイルの作成および保存](#)のステップを完了し、Office 365 ユーザーへのデプロイメントの開始準備が整っていることを前提としています。

重要: Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)アドインを Office 365 ユーザーにデプロイする前に、独自のテストおよび開発タスクを実行するために、最初にアドインをサイドロードしておく必要があります。詳細は、次を参照してください:

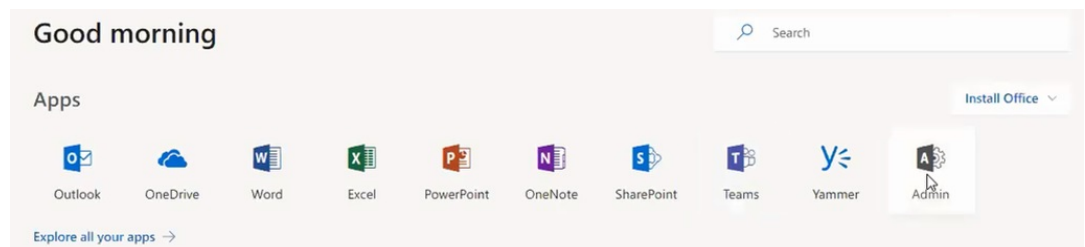
- [Chrome: サイドロードとログイン](#)
- [Mac: Excel 365 のサイドロードとログイン](#)

① ノート

マニフェスト・ファイルで「組み込み関数のサポート」オプションが有効になっている場合は、デプロイする前にキャッシュをクリアする必要があります。詳細は、[Mac での Office および Web キャッシュのクリア](#)および[Chrome ブラウザのキャッシュのクリア](#)を参照してください。

Smart View を Office 365 ユーザーにデプロイするには:

1. Office 365 にログインし、「管理」リンクをクリックして、Microsoft 365 管理センターにアクセスします。



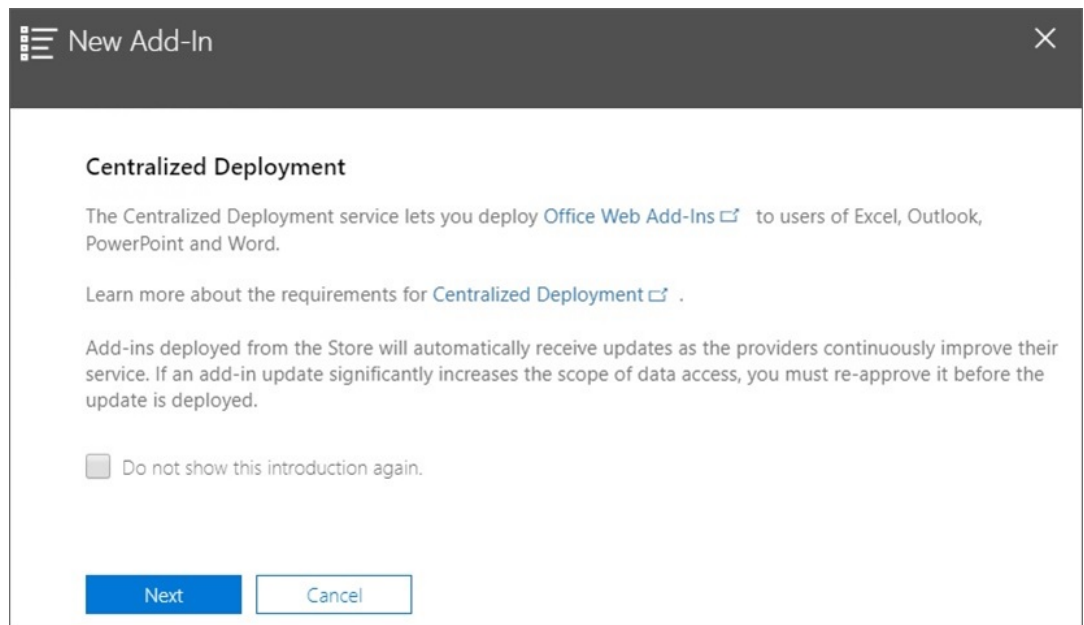
2. 左側のパネルで、「設定」、「サービスとアドイン」の順に移動します。



3. 「サービスとアドイン」 ページで、「アドインの展開」 をクリックします。

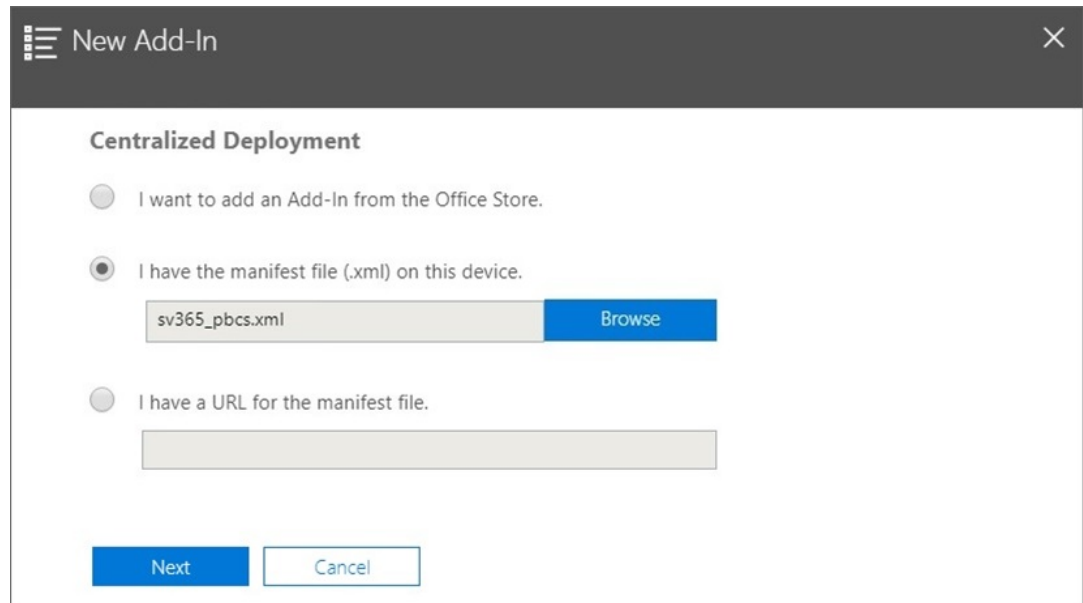


4. 「新しいアドイン」 の 「一元展開」 ウィザードで、「次へ」 をクリックします。



5. ウィザードの 2 ページ目で、「このデバイスにマニフェスト ファイル(.xml)があります」 を選択して 「参照」 をクリックし、保存したマニフェスト・ファイルの場所に移動してファイルを選択し、「OK」、「次へ」 の順にクリックします。

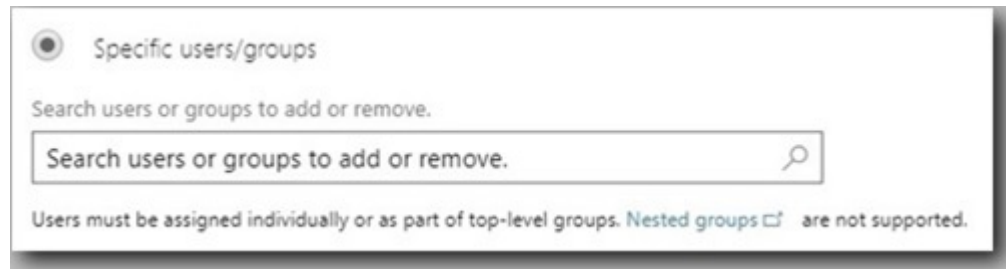
この例では、sv365_pbcx.xml というローカルに保存されたマニフェスト・ファイルに移動しました。



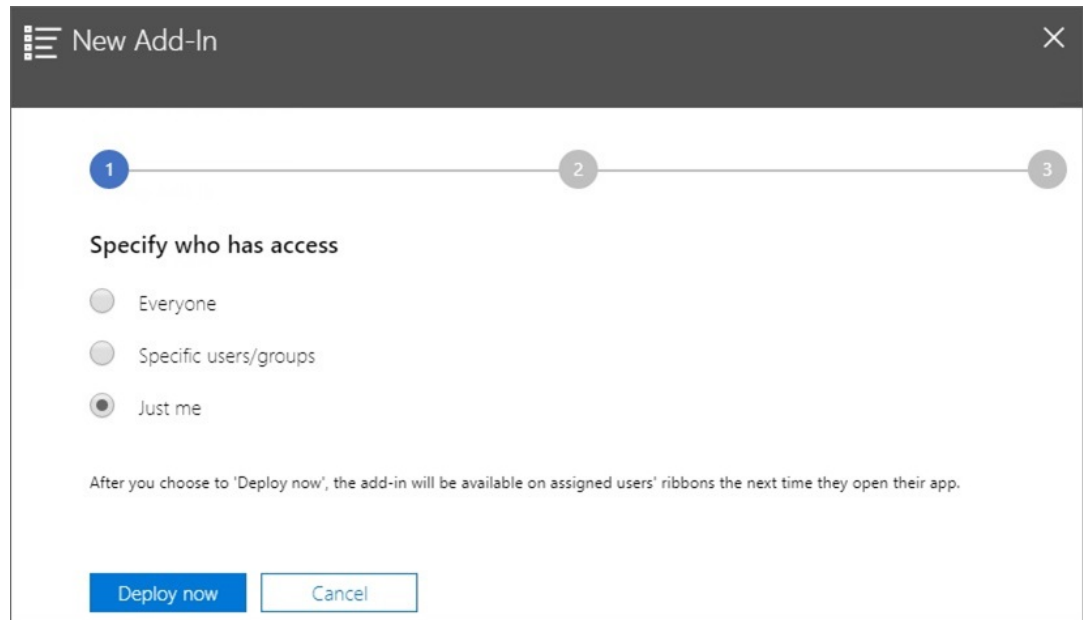
6. Office 365 の Smart View アドインへのアクセス権があるユーザーを指定し、「**今すぐ展開する**」をクリックします。

Office 365 のすべてのユーザー、すでに定義してあるグループの特定のユーザー、または自分だけにデプロイすることを選択できます。

「**特定のユーザーまたはグループ**」を選択すると、ユーザーまたはグループの追加を支援する検索ボックスが表示されます。

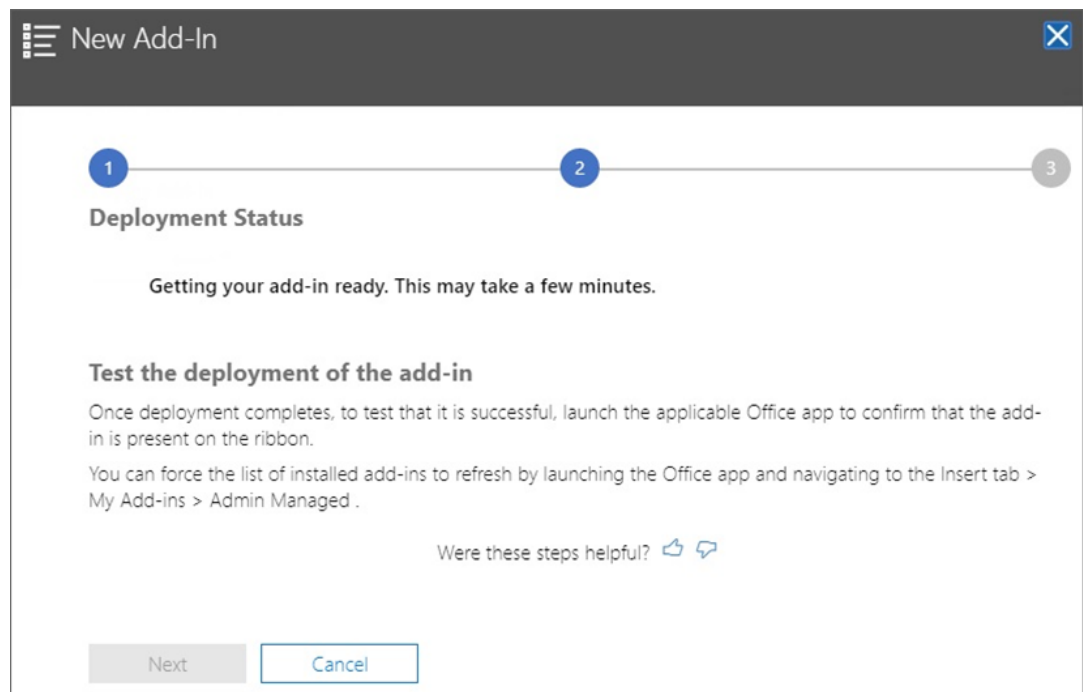


この例のシナリオでは、「**自分だけ**」を選択します。

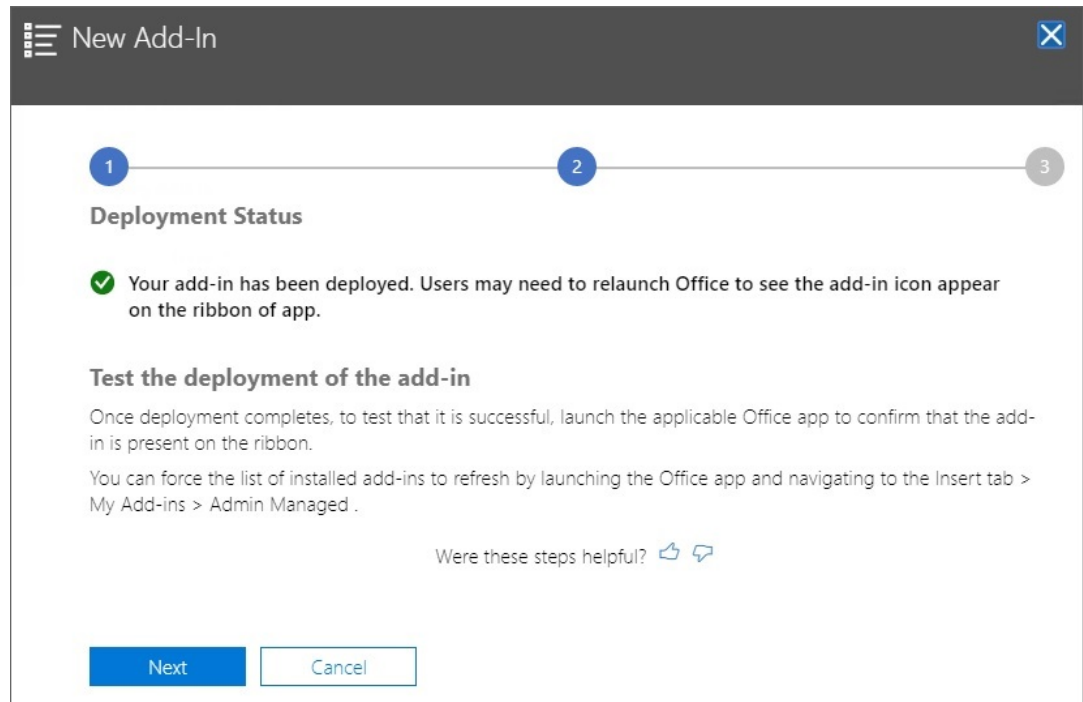


「今すぐ展開する」をクリックすると、デプロイメントが処理されます。

デプロイメント・ウィザードのステップ 2 に進みます。ステータス画面が表示されます:

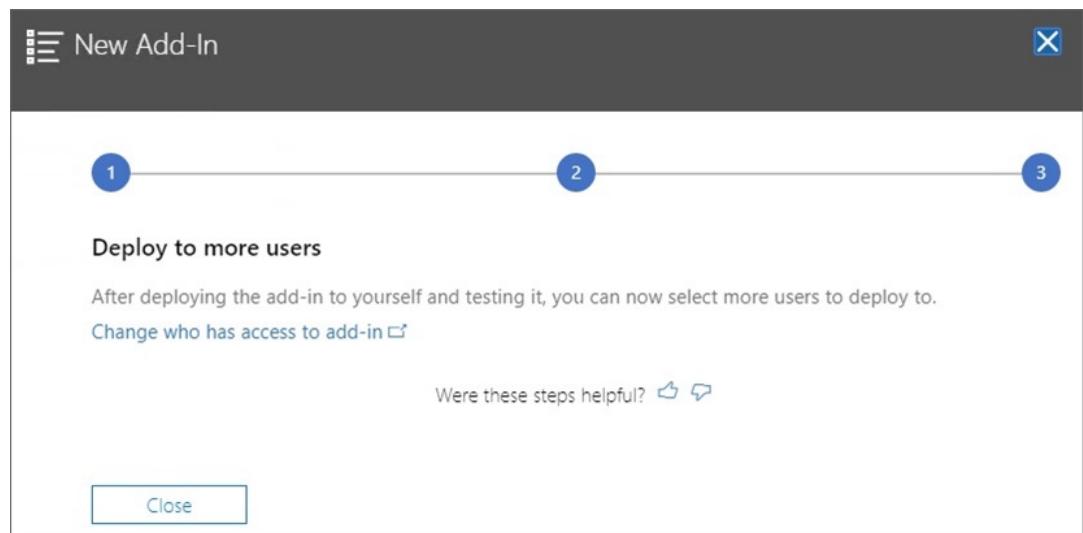


デプロイメントが終了すると、デプロイメントのステップ 2 に緑色のチェック・マークが付きます。

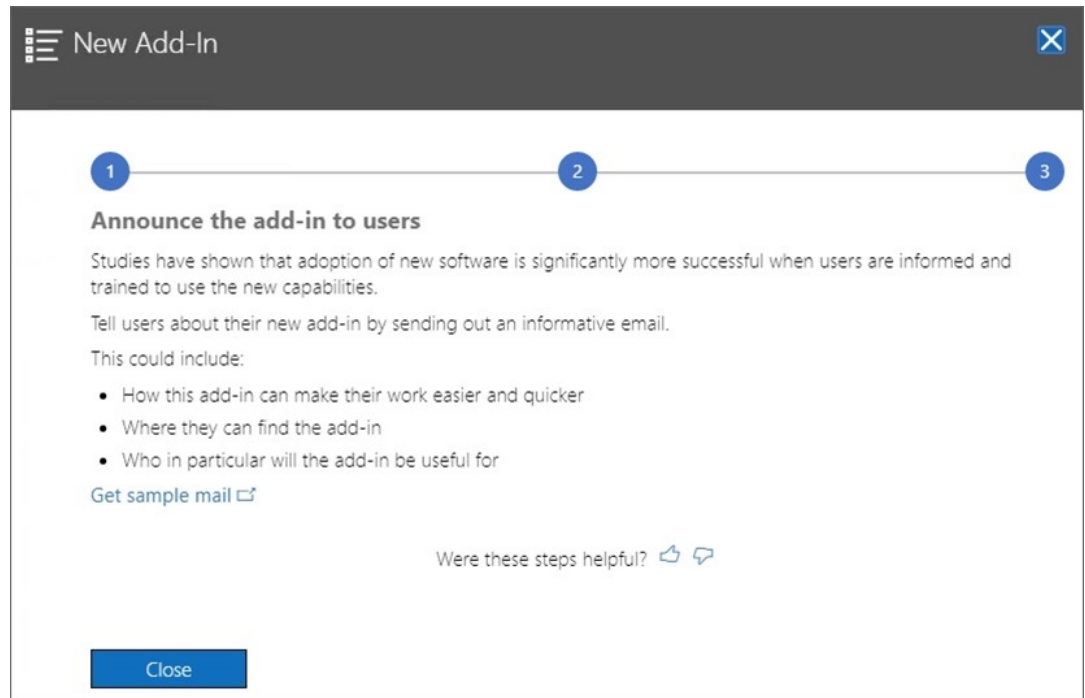


7. 「次」をクリックします。

これで、デプロイメントの最終ステップ(ステップ 3)になりました。前のステップで「自分だけ」を選択しているため、デプロイメントにさらにユーザーを追加するオプションが表示されます:



前のステップで「すべてのユーザー」または「特定のユーザーまたはグループ」を選択した場合は、次のような画面が表示され、Smart View アドイン・ユーザーに対する電子メール通知のサンプルを確認するオプションが提供されます。



8. 「閉じる」をクリックします。

(オプション)他のユーザーへのデプロイを選択した場合は、「**メールのサンプルを入手**」リンクをクリックして、Office 365 の新しい Oracle Smart View for Office アドインを知らせる目的でユーザーに送信できる電子メール・テキストの提案を表示します。

9. **オプション:** 複数のマニフェスト・ファイルをデプロイする場合は、デプロイする各マニフェストに対して前述のステップを繰り返します。

複数のマニフェスト・ファイルのデプロイの詳細は、[複数のマニフェスト・ファイルの操作](#)を参照してください。

次回 Office 365 にログインし、Mac またはブラウザで Excel を起動すると、Smart View のリボンが表示されます。

9

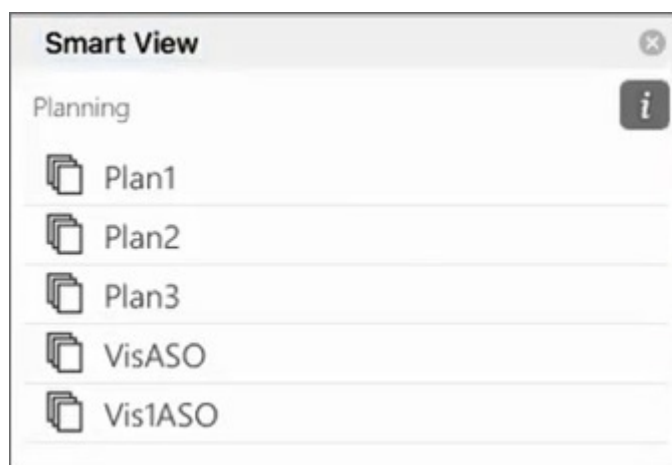
ヒントとトラブルシューティング

次も参照:

- [ライブラリ・フォルダが「ホーム」パネルに表示されない\(「ストレージのクリア」オプション\)](#)
- [Chrome でのポップアップ・ブロックの無効化](#)
- [Chrome ブラウザのキャッシュのクリア](#)
- [Mac での Office および Web キャッシュのクリア](#)
- [タスク・リスト表示の問題](#)
- [Smart View \(Mac およびブラウザ\)のボタンに影響する Microsoft 社による Office 365 アドイン・コマンドの変更](#)

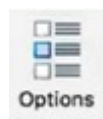
ライブラリ・フォルダが「ホーム」パネルに表示されない(「ストレージのクリア」オプション)

ログイン後、アプリケーションのライブラリ・フォルダが「ホーム」パネルに表示されないことがあります。例:

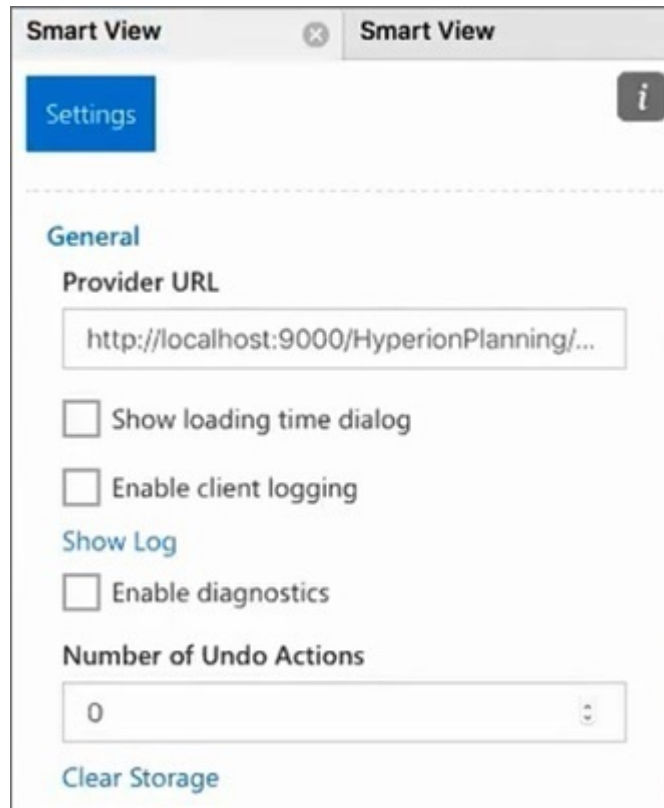


ログイン後、アプリケーションのライブラリ・フォルダが「ホーム」パネルに表示されない場合は、次の手順で Smart View キャッシュをクリアしてください:

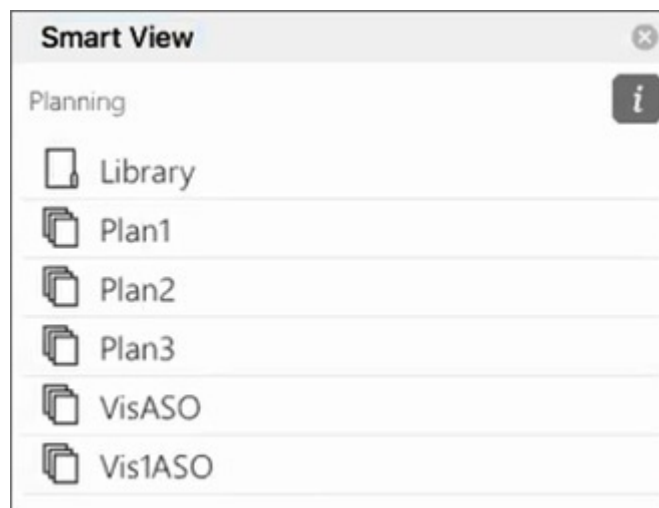
1. Smart View のリボンで、「**オプション**」ボタンをクリックします:



2. 「オプション」パネルの「設定」タブで、「ストレージのクリア」をクリックします。






3. Mac またはブラウザで Excel 365 を終了してから再起動します。
Mac の Excel 365 で Smart View アドインをサイドロードした場合は、もう一度サイドロードする必要があります。[サイドロードとログイン](#)を参照してください。
4. Smart View のリボンを選択し、「ホーム」を選択します。
ライブラリ・フォルダが「ホーム」パネルにアプリケーション・キューブとともに表示されます。



Chrome でのポップアップ・ブロックの無効化

ドリルスルーを使用するには、環境の Chrome ポップアップ・ブロックを無効にする必要があります。

Chrome のポップアップ・ブロックを無効にするには:

1. ブラウザのツールバーで Chrome メニュー(3つのドットのアイコン)をクリックします。
2. 「設定」を選択します。
3. ページを下方にスクロールし、「詳細設定」をクリックして詳細設定を表示します。
4. 「プライバシーとセキュリティ」セクションで「サイトの設定」のをクリックします。
5. 「ポップアップとリダイレクト」セクションでをクリックします。
6. 「許可」の下で「追加」をクリックします。
「サイトの追加」ダイアログで、環境の URL を入力します。例:
`https://<<your env name>>.oraclecloud.com`
7. 「追加」をクリックします。
URL が「許可」のリストに表示されます。


Chrome ブラウザのキャッシュのクリア

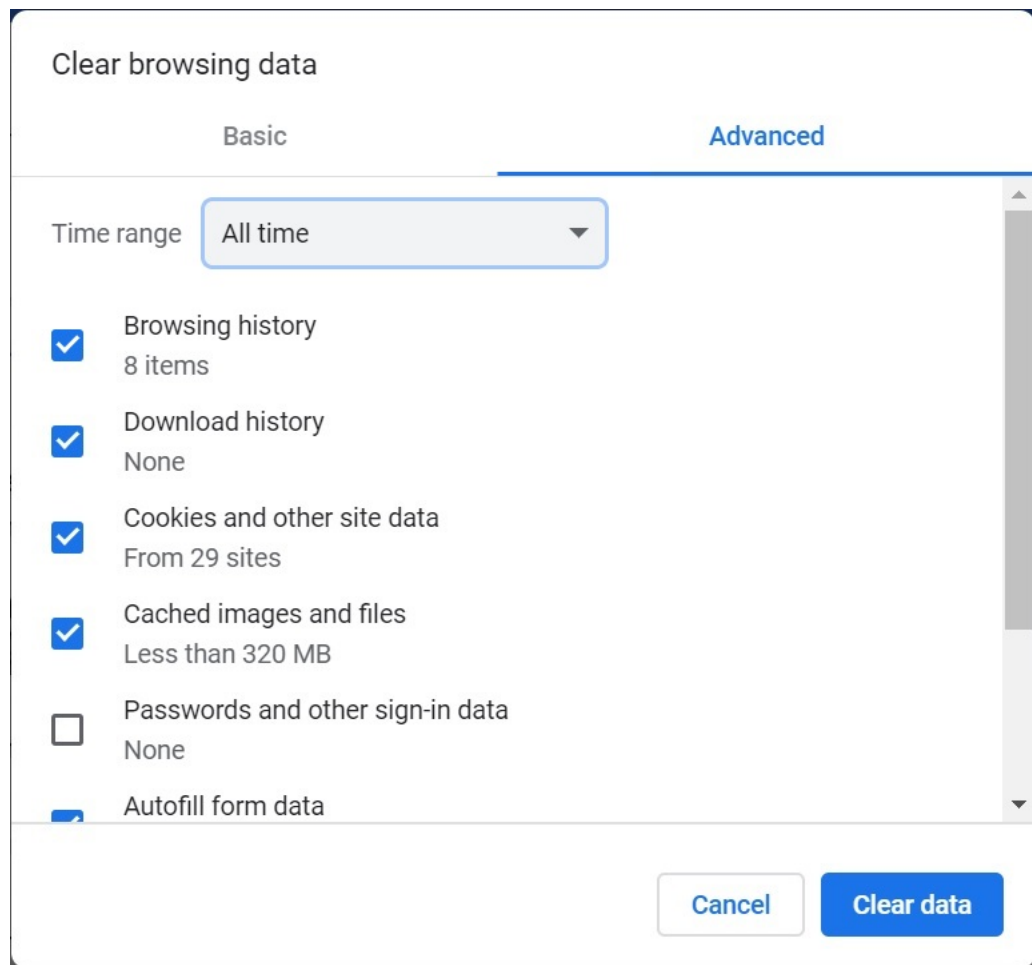
次の場合は、変更または更新されたマニフェスト・ファイルをサイドロードまたはデプロイする前に、ブラウザのキャッシュおよび Windows の2つのフォルダの内容をクリアします:

- 以前のセッションで Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)アドインをサイドロードしたことがある場合。
- マニフェスト・ファイルで「組み込み関数のサポート」オプションが有効になっていて、次のエラーが表示されないようにする場合:

There was an issue installing custom functions in this add-in. Please try to install this add-in again. If this issue persists, please visit: <https://aka.ms/customfunctions-troubleshooting>.

Chrome でキャッシュをクリアするには:

1. Chrome を起動します。
2. Chrome 画面の右側にある Chrome メニュー(3つのドットのアイコン)をクリックします。
3. 「その他のツール」、「閲覧履歴を消去」の順に選択します。
4. 「詳細設定」タブをクリックし、次のように選択します:
 - 「期間」で、「全期間」を選択します
 - 「パスワードとその他のログインデータ」の選択を解除し、それ以外のすべてのチェック・ボックス・アイテムを選択します



5. 「データを削除」をクリックします。
6. Windows ファイル・エクスプローラで、次のタスクを実行します:
 - 次のフォルダの内容をクリアします:
`%LOCALAPPDATA%\Microsoft\Office\16.0\Wef\`
 - 次のフォルダの内容をクリアします(存在する場合):
`%userprofile%\AppData\Local\Packages\Microsoft.Win32WebViewHost_cw5n1h2txyew-y\AC\`
7. Chrome を再起動します。

Mac での Office および Web キャッシュのクリア

次の場合は、Mac で Excel の Office キャッシュおよび Web キャッシュをクリアします:

- 接続しているプロバイダが更新された場合(たとえば、月次更新プログラムが適用された後)。
- 新規または変更されたマニフェスト・ファイルをサイドロードまたはデプロイする前。
- 以前に同じ Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)アドインを初期のセッションでサイドロードし、問題(ログインの問題など)が発生している場合。

- マニフェスト・ファイルで「**組み込み関数のサポート**」オプションが有効になっている場合。

MacでExcelのOfficeキャッシュをクリアするには:

1. ファイルを手動で削除することでOfficeキャッシュをクリアします:

- a. すべてのOfficeアプリケーションを閉じます。
- b. 次のフォルダの内容を削除します:

```
/Users/{your_name_on_the_device}/Library/Containers/  
com.Microsoft.OsfWebHost/Data/
```

そのフォルダがMacに存在しない場合は、システムで次のフォルダの場所を調査し、見つかった場合はその内容を削除します:

```
~/Library/Containers/com.microsoft.excel/Data/Library/Caches
```

```
~/Library/Containers/com.microsoft.excel/Data/Library/Application Support/  
Microsoft/Office/16.0/Wef
```

```
com.microsoft.Office365ServiceV2/Data/Caches/  
com.microsoft.Office365ServiceV2/
```

詳細は、Microsoft サポート・サイトの [Office キャッシュのクリア](#) および Mac での Office キャッシュのクリアに関する項を参照してください。

2. マニフェスト・ファイルを再サイドロードまたは再デプロイし、Excel を起動して、Smart View にログインします。

[Mac: Excel 365 のサイドロードとログイン](#) または [Mac: Excel 365 のサイドロードとログイン](#) を参照してください。

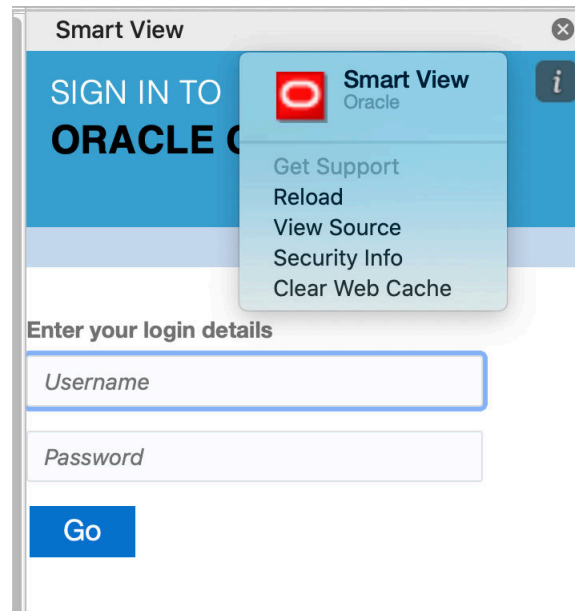
3. 「Web キャッシュのクリア」コマンドを使用して、Web キャッシュをクリアします:

- a. Smart View のリボンで「ホーム」を選択します。
- b. ログイン・ダイアログまたはホーム・パネルの右上隅にある「i」アイコンをクリックして、「パーソナリティ」メニューを表示します。



- c. パーソナリティ・メニューで「Web キャッシュのクリア」を選択します。

この例では、ログイン画面からパーソナリティ・メニューにアクセスしています:



詳細は、Microsoft サポート・サイトの [Office キャッシュのクリア](#) および Mac での Office キャッシュのクリアに関する項を参照してください。

4. Smart View で作業を続行します。

タスク・リスト表示の問題

「タスク・リスト」パネルにタスク・リストを表示するには、現在ログオンしているユーザーに 2 つ以上のタスク・リストが割り当てられている必要があります。

現在ログオンしているユーザーに割り当てられているタスク・リストが 1 つのみの場合は、次のメッセージが「タスク・リスト」パネルに表示されます:

- Chrome:
"TypeError: e is not iterable Please close this panel"
- Mac:
"TypeError:undefined is not a function (near '...t of e...')Please close this panel"

回避策: そのユーザー用のタスク・リストをもう 1 つ作成します。

Smart View (Mac およびブラウザ)のボタンに影響する Microsoft 社による Office 365 アドイン・コマンドの変更

Office アドインのセキュリティを改善するため、Microsoft Office 365 では、2022 年 10 月 30 日から `ExecuteFunction` アドイン・コマンドが変更されました。Smart View for Office (Mac およびブラウザ)では、リボン・ボタンおよびメニューでこのコマンドを使用するため、一部のボタンが 10 月 30 日から動作を停止する場合があります。たとえば、Smart View およびプロバイダのリボンの「元に戻す」、「やり直し」、「リフレッシュ」などのボタンです。この問題は、最新の Smart View 更新 22.11 で解決されています。変更はサーバーの更新に制限されているため、この問題を解決するために新しいマニフェスト・ファイルを再度作成およびデプロイする必要はありません。

Microsoft 社のお知らせの詳細は、[Announcing changes to Office Add-ins' ExecuteFunction commands](#) を参照してください。